

★「書簡と公文書でたどる日露戦争」資料編
【日露戦争時の第六師団進軍図】



(引用元…『熊本兵団史』、鶴屋百貨店、一九七六年)

《資料1》【熊本市政資料777 製本番号818】

「凱旋軍隊歓迎一件書類」

「永年保存」

凱旋軍隊歓迎一件書類

自治明治三十八年十月 庶務係

(目次略)

(一) 協議事項

- 一 凱旋軍隊一般歓迎準備整頓前ニ帰来スル小部隊ノ歓迎ハ差寄り左ノ振合ヲ以テ執行スルコト
- 一 市トシテハ凱旋ノ際春日停車場付近ニ於テ毎回五発宛ノ煙火ヲ打上ケ、又凱旋軍人ノ数ニ応シ一人ニ付約一合宛ノ割ヲ以テ其軍隊ニ酒若干樽ヲ寄贈スルコト
- 一 尚武会トシテハ音楽隊ヲ春日停車場ニ出シ春日上熊本ノ二停車場及細工五丁目出外レニ大国旗ヲ掲クルコト
- 一 軍隊通過ノ道筋ハ軒頭ニ国旗ヲ掲ケ、夜間ハ点灯セシムルコト
- 一 軍隊到着ノ際ハ市ノ公職ニアルモノ及尚武会委員ハ各町内ヲ勧誘シテ可成多数春日停車場付近ニ出迎ヲ為スコト
- 一 市トシテ寄贈スル酒及煙火代ハ一時尚武会ヨリ借入レ置キ、準備成ルノ暁ヲ以テ戻入ル、コト
- 一 凱旋歓迎ニ関スル寄附募集ハ現金ニ限ラス相当ノ制限ニ依リ物品ニテ寄附スルモ差支ナキコト、シ、其集リタル物品ヲ便宜ナル一定ノ場所ニ収集シ、福引ノ方

法ニ依リ凱旋ノ下士以下ニ寄贈スルコト
但寄附ノ振合ハ市民貧富ノ程度ニ応シ鑑定員ヲ設ケ、具鑑定ニ抛ラシムルコト

(二)

明治廿八年十月廿四日 同 (空欄)	浄書 主任 後藤 書記 校合 立案 (空欄)
市長 (円印「辛島格」) 助役 (円印「市尾」) 名誉職参事会員	第一課長 (円印「井場」)

(途中略)

(四)

「至急」

明治廿八年十月廿四日 浄書 主任 後藤書記

同 校合

市長「辛島格」 第一課長

助役「市尾」 庶務係「井場」

名誉職参事会員

市庶第一三二号

左記各市へ御照会案伺

凱旋軍隊歓迎上ニ関シ、目下貴市ニ於テ諸般御設備中ノ由ニ有之候處、右ニ対スル予算ノ編製ハ如何ナル費目ニ編入セラレベキヤ、御取扱振り承知致度候間、折返し御回報相煩ハシ度、此段及御照会候也

年月 所名

門司、小倉、福岡、長崎
広島、大坂、神戸、名古屋
京都、東京、横浜
各市宛

「熊本 卅八年十月廿七日 受
市役所 第二三八号 一」

「第二三八号」

貴市庶第一三二号ヲ以テ凱旋軍隊歓迎上ニ関スル予算編製費目編入云々御照会ニ候處、本市ニ於テハ未ダ其設備無之候条、右様御了知相成度、此段及御回答候也

明治三十八年十月廿五日 長崎市役所
熊本市役所 御中

(粹外)「回覧」「辛島格」「市尾」「後藤」「井場」

「波第二二三一号」

凱旋軍隊歡迎費予算編成ノ義ニ付
市庶第一三二号ヲ以御照会之趣了承、本市ニ
於テハ役所費中交際費ヨリ三千三百円支出ス
ル事ニ市会ノ決議ヲ経テ、実施致居候間、右様
御了知相成度、此段及御回答候也

明治卅八年十月廿六日

福岡市役所

熊本市役所 御中

(途中略)

本月二十四日付市庶第一三二号ヲ以テ
凱旋軍隊歡迎上ニ関シ御照会之
趣了承、本市ニ於テハ軍人待遇会ナ
ルモノアリテ、之ニ歡迎ニ要スル費用ヲ補
助シ、同会ニ於テ歡迎会ヲ為ス義ニテ
予算ノ編製ハ軍人待遇会ヘ補
助費トシテ取扱ヒ候、此段及御回
答候也

明治三十八年十月二十七日

広島市役所

熊本市役所御中

(途中略)

庶乙第五三六〇号

本月廿四日付市庶第一三二号ヲ以テ御
照会ノ件ハ本年十月廿四日ハ聯合艦
隊凱旋歡迎ニ関スル費用ハ市役所
費(款)交際費(項)ノ費目ニ依リ整
理致候、右及回答候也

明治三十八年十月三十日

東京市役所

熊本市役所 御中

(途中略)

(五)

明治卅八年十月廿七日 浄書 主任 後藤 書記
市長「辛島 格」助役「市尾」 第一課長「井場」

第 号

煙火委員囑托按向

軍隊凱旋ノ際、春日停車場付近ニ於テ毎回五発宛ノ煙火
打上ノ事ニ関シテハ監督者無之付而ハ不都合ニ可有之存
セラレ候ニ付、御迷惑ナガラ貴殿ニ於テ時間其他錯誤ヲ
生セサル様煙火受持委員トシ(以下見えず)

年月日 市長

凱旋軍隊準備委員

甲斐一郎殿

(途中略)

(七)

(欄外)「市長「辛島格」、委員「岩成」、尚武会「伊喜見」、
主「後藤」

昨廿七日到着之軍隊、左之通ニ候、此段御報致候也
三十八年十月廿八日 兵事係「倉永」

左ノ通寄贈相成可然事

庶務掛御中

(高尾酒店出シ)

(一) 第五号補助輪卒隊

(一) 隊長輜重兵中尉青柳勝次郎以下三八六

(一) 第七号補助輪卒隊

(一) 隊長輜重兵特務曹長関 勇以下二七五

卅八年十月廿八日 到着

後備第二旅団騎兵隊本部並ニ第三中隊

百九十七名

(途中略)

受領証

一 清酒

式

右受領候也

明治三十八年十月廿八日

第六師団第七水上勤務補助輪卒隊

田路 九郎

(途中略)

今般以御陰無事凱旋相出来、深く奉感謝候、特に昨日は
御丁重なる御進物を賜はり早速部下一同に分配して御芳
志に浴せしめ候、先は不取敢乍略儀以書中部下一同に代
り厚く御礼申上候

勿々敬具

明治三十八年十月廿九日

第七水上勤務輪卒隊長 関 勇

熊本市長 辛島 格殿

《資料2》(資料番号1―8)

差し急ぎ一筆申上候、待二待ちたる動員の令も本日午後一時相下り、吾等軍人の聖恩に報ゆるの好機は愈々至たかと申候、就而は出発之期も不遠と存候、一旦出発いたし候上は生還もとより望む所に非ず候得ば、離別の辞として一筆差上置候間、何卒御健康にて御勉強あらんことを祈り上候、出発後と雖とも生命のある限ハ色々と御報導も可致候、先ハ右御報まで。

出発の期日等ハ相分り次第御報知可致候

敬具

繁蔵

乙寿殿

二白

増永おもそ様へハ何卒宜敷願上候

(文意)

差し急ぎ一筆申し上げます。

待ちに待った動員命令も、本日午後一時に下りました。われら軍人が天皇の御恩に報いる好機がいよいよ来ました。つきましては出発の日程も遠くないと思います。一旦出発したならば、素より生還は望んでいません。お別れの言葉として一筆差し上げておきますので、なにとぞご健康でご勉励されることを祈ります。出発したあとでも私の生命が続く限りは色々とご報道もいたします。まずは右のお知らせまで。出発の期日は分り次第お知らせいたします。

(吉住) 繁蔵

(西園寺) 乙寿殿

追伸

増永おもそ様へなにとぞよろしくお伝えください。

《資料3》(資料番号1―2)

益々御多祥奉賀候、陳れば動員完結以来一日千秋の思を為して待ちたる出発の日も愈々来る九日午前三時、熊本停車場を出発、長崎に向ひ、夫れより船舶輸送にて愈々遠征の途に就くべく候、上陸地点は何れなるや、軍事機

密に属する事に候へば、敢て口外致し難く候、遠からず上陸を了へ候へば鉄蹄の続くかぎりはこのしこ草踏みしたぎ、刀の目釘の続くまでは寸暇なき事と存候間、文の便よりも到底六ヶ敷事と存候、兎角新聞号外を見て余が消息と思[■]被下度候、もし寸暇あらば必ず勇壮なる戦報等も存命中ハ差上可申候也、何ハ兎もあれ、身体御健全を祈る 終り

吉住繁蔵

西園寺乙寿様

(後欠)

(文意)

ますますの御多祥をお慶びします。

動員命令以来、一日千秋の思いをして待った出発の日も、いよいよ来る九日午前三時となりました。熊本停車場(熊本駅)を出発して長崎に向かい、それから船の輸送でいよいよ遠征の途に就くことになります。上陸地点はどこになるか、軍事機密に属しますので、口外することはできません。遠からず上陸を完了したならば、馬の蹄鉄が持つ限り進み続け、刀の目釘が折れるまでは少しも休まることがないでしょう。お便りを差し上げるのも到底難しいと思います。とにかく新聞・号外での報道をご覧になって、私の消息だと思つていただきたいです。もし少しでも時間があれば、必ず勇ましい戦報なども私が生きている限り差し上げます。まずはともあれ、身体のご健康を祈ります。終わり。

《資料4》(資料番号1―5)

「御心つくしの御守りハ慥かに拝受、戦地に持参可致候、かりの便よりハ肝要の事に候」

春とは言へども野辺の匂ひも身に染まず、雲雀の声も長閑ならず、朝霞たなびくは軍の旗か夕煙しつは砲台のあたりかと疑はるゝ、昨日今日思ひかけなくも御手紙に接し難有存候、さて月日のしつは早きものにて日露砲火を交へしより茲に数月、我軍の行動知るに由なく候へ共、到る処勇氣と機敏の動作ハ信して意を強ふすべく候、既に先月上旬の比か我騎兵四名の勇戦敵騎廿名に衝突し、能く偵察の任務を全ふしたるの夜などハ血躍り肉振ふの感なき能はず、烏港の威嚇砲撃、ホシエツト湾の上陸、既に甘萬の陸兵ハ戈ヲ横へて異域の野に陣し、残余の数

個師団も続々動員の令下り、豫何備を召集し、此一団軍到着せず、卅萬の陸兵ハ滿州の野に驚露五十萬の兵に龍驤の活劇を演すべく候、之に反し、我等ハ何の不運ぞ未だ此榮に預かるの機を得ず、実に残念千秋の限事に候ハす哉、去りなから早曉戦線に列するハ断して疑はざる所に候、本月初旬比の噂にてハ去る十五日比出發の予定ナリしも、目算からりと逃れ、今に模様の変わりしるも無之、落胆例ふるに物なく候、何れ動員の令下り、出發の曉には必ず報導可致候、兎角身体御自愛あれ、先ハ御返事まで、余ハ後便にゆづる。

早略

四月十九日 繁象

乙寿殿

書添へなからおもそ様には呉々も宜敷、先日御來隊被下候後、何の言葉も申上かね候段ハ、幾重にも御容捨被下様、御前様より御断り被下度、必ず願上候

(文意)

(追伸文)

「お心づくしのお守りは確かに受け取りました。戦地に持参します。お手紙をお送りいただくことは大事に思っています。」

春とはいっても野原の匂いも身に染まず、雲雀の声も長閑に聞こえません。朝霞がたなびくのは軍の旗かと見えますし、夕煙は砲台のあたりだろうか(砲火だろうか)と疑われます。昨日、今日と思いがけなくあなたからのお手紙に接し、ありがたく思います。

さて、月日が過ぎるのは早いもので、日露が砲火を交えてからすでに数か月。我が軍の行動を知る手段もありますが、いたるところで友軍の勇氣と機敏に満ちた動作は我々の自信を高めてくれます。先月上旬のころだったでしょうか、我が騎兵四名が勇戦して敵騎兵三十名と衝突し、偵察任務をよく務めた夜などは、血が躍り肉振るような感激がありました。烏港(木山注…ウラジオストク)の威嚇砲撃、ポシェット湾の上陸、すでに二十万人の陸兵が戈(武器)を携えて異国の野に布陣しています。残りの数個師団も続々と動員の命令が下り、予備兵も召集されていますが、この一団はまだ到着していません。三十万人となる陸兵は、滿州の広原でロシア兵五十

万と極めて激しい戦いを繰り広げることでしょう。

これに反して、私たちはどんな不運なのか、いまだこの栄えある機会に参加することが出来ず、実に残念至極ではありませんか。しかしながら、我々も早曉戦線に配置されるのは決して疑いありません。今月初めころの噂では、去る十五日前出發の予定だったので、見込みは全く外れ、現在も状況変化はありません。我々の落胆は例えようありません。いずれ我々に動員命令がくだり、出發するときは必ずお知らせします。

とにかくお身体をお大事に。まずはお返事まで申し上げて、残りは後便に譲ります。

四月十九日 繁象

乙寿殿

書き添えとなつてしまいましたが、おもそ様へくれぐれもよろしくお伝えください。先だってご來隊くださった後、何も言葉をおかけできていないこと、どうかご容赦くださいますよう、あなた様からおことわりいただきたく。必ずお願いいたします。

《資料5》(資料番号1-17)

前略、上陸以来前進又前進と打続き、戦闘を交ゆる事、爰に二回なるも総て撃退し、我軍の負傷者は余程尠々候も、昨日の戦闘に於て小隊長及兵卒一名、コサツクの為に銃傷者を生じ候、此等の事ハ戦地に在る我々よりも新聞号外等に余程委しく登載せる候ならん、私も戦線に列し居候も幸にして寸傷も不被、身体益々健全御安神被下度候、目下蓋平を隔る南方十里余の熊岳城附近に進退致居候、日ならずして大戦闘に加わるならん指折り算へ相待ち居候、後報を待たれ被下候

かしこ

六月廿四日 繁象

おもそ様

乙寿様

(文意)

前略、上陸以来前進、また前進と続き、戦闘を交えることすでに二回となりましたが、全て敵を撃退しました。

我が軍の負傷者はとても少ないですが、昨日の戦闘で小隊長と兵卒一名が、コサック騎兵の攻撃により銃傷者を生じてしまいました。こうした事は戦地にいる我々よりも、新聞号外などによほど詳しく載っているのではないのでしょうか。

私も戦線にいますが、幸いなことに少しの傷も受けておらず、身体はますます健全ですのでご安心ください。目下、蓋平（中国・遼寧省蓋州）を隔てた南方十里余、熊岳城付近に活動中です。間もなく大規模な戦闘に参加できるだろうと指折り数えて待っているところです。次の報告をお待ちください。かしこ。

六月二十四日 繁象

おもそ様

乙寿様

《資料6》（資料番号1―1）

拝啓

其後彼地に滞在する事、殆んど二週間余にして前進を始め、昨九日を以て漸々蓋平の惣攻撃に移り、戦況の荒ましを報道致さんに、其日の未明に我軍同所を包囲し、東雲白む頃ニハ早くも諸々に銃声を聞き、砲撃を始めしは午前五時と相覚へ候、敵ハ稍々頑固に抵抗せしも精鋭なる我決死の軍隊には奈行でか相敵するを得んや、次第々々に退却して午後三時頃ニハ早くも蓋平の北方二里の所まで退却し、打ち出す砲弾さへも力なげに漸々破裂するが如くに覚へ、一として命中するはなく、吾々も大分砲弾を被りしも、一人の負傷も無之、三時四十分頃ニハ我々の任務として敵に追接せしか、四時比ニハ僅かの騎兵と砲一、二門位にて、外に一兵をも見受け不申、其帰途彼等の屯せし所と覚える驢馬、牛、馬の蹄骨等を散乱し、悪臭紛々として見るさへ胸悪き位に有之候、思ふに是等ハ土人の農家を襲ひ、強奪して食欲を貪りしならん、戦戦の跡は我砲弾の破片、恰かも布くが如く散乱し、血痕路上に点在し、或ハ血にまみれし襦袢、未だ生血の乾かさる縋帶布当をまき散らし、実に惨憺たる戦後の光景、察するに大分の死傷者ありしならん、我軍にも少しハありしならん、是等の事ハ燈台下暗しで号外新聞等の報ずる所を御覧あれ、先ハ右御報知まで、手紙御差出なされ候ハ、左の如く封筒にしたゝめ御差出しあらば必

ず到着致し候

（裏面）

（表面）

熊本県上益城郡飯野村

出征第六師団騎兵第六連

西園寺乙寿

隊第一中隊第三小队附

何月何日

吉住繁象様

親展

兎角郷里の手紙ハ陣中の慰物ニ相成候間、御閑の節ハ御一筆御送り被下、日本ニ於テハ日露の關係に就て如何なる風説其他新聞等の報ずる所ハ如何に候や、御聞き及ひもあらば御知らせ被下、燈台下暗しで少しもわからず。

七月十日

繁象

乙寿殿

おもそ様ニハ呉々も宜敷。求むるに紙なし、経済して細く書きましたから見にくき所ハ幾重にも御容捨。

（文意）

その後、彼の地に滞在すること二週間余りで前進を始め、昨日九日からようやく蓋平への総攻撃に移りました。戦況を報道いたしますと、その日の未明に我が軍が同所（蓋平）を包囲しました。東の空が白ずむころには早くも方々に銃声が聞こえ、砲撃を始めたのは午前五時だったかと覚えていきます。敵は少し頑強に抵抗しましたが、精鋭である我が決死の軍隊にどうして対抗することができませんでした。次第に敵は退却をはじめ、午後三時ころには早くも蓋平の北方二里のところまで退却し、打ち返してくる砲弾までも力無さげに、ようやく破裂していたように感じました。一つとして我が軍に命中する弾はなく、我々も大分砲弾を打ち込まれましたが、一人の負傷者も出ていません。

（午後）三時四十分ころには我々の任務として敵を追跡しましたが、四時ころには敵は僅かな騎兵と大砲一、二門位しかおらず、他には一人も兵士は見当たりませんでした。その追跡の帰り道、彼等（ロシア兵）が駐留していたと見られる場所に、ロバ、牛、馬の蹄・骨が散乱して悪臭が立ち込め、見るだけでも気分が悪くなるような有様でした。私が考えるに、こうした有様は敵軍が地元農家を襲い、物資を強奪して食欲を満たしたものでしょう。戦場の跡には我が軍が打ち込んだ砲弾の破片が、あたかも布を敷いたように散乱し、血痕は路上に点在し

ていました。あるいは血に塗れた襦袢や、まだ生血が乾いていない繻帶、布当てが撒き散らされ、本当に惨憺たる戦闘後の光景を呈していました。察するに、かなりの数の死傷者があったものでしょう。我が軍にも少しは被害があったものと見られます。こうした事は「灯台下暗し」というもので、(詳しいことについては)新聞号外が報道するところをご覧ください。

まずは右のお知らせまで。手紙などを差し出されるときは、左のように封筒に認められ、投函されますと必ず私の手許に届きます。

※(封筒上書例は翻刻文参照)

とにかく故郷からの手紙は戦陣中の慰めとなりますので、お暇のときはお手紙をお送りください。日本では日露の関係についてどんな噂や新聞報道があっているのでしょうか?お聞きになったことなどあれば、お知らせください。「灯台下暗し」で少しも分かりません。

七月十日 繁象

乙寿殿

おもそ様にはくれぐれもよろしくお伝えください。求めでも紙がなく、大分辛抱して細く書きましたから、読みにくいところはどうぞご容赦ください。

《資料7》(資料番号1-4)

時下酷暑の砌、如何御暮しなされ候哉、定めし御壮健之御事と奉察候、私事其後無事極壮健にて相暮らし居候俟、御安心被下度候、先達而より差出候数通の手紙ハ到着いたし候哉伺上候、返事ハ封筒裏面の通り認めなされはつづ必ず到着可致候間、其積りにておもそ様ハ別に手紙も一口申述置き候得共、尚ほ御身よりも宜敷御申越被下度願入候、申し度き事ハ種々有之候得共、多忙の際爰にて筆を止む

露宮の夢を野狐に

破られ頭抬ぐれば

月は冷たる外套の

すき間を漏れて顔てらす

月にかわりはなけれ共

○○○○○○○○○○

○を慕ふにあらね共

○○を■ふにあらね共

夜毎に結ふ其連句は

○○の空に遊ぶなり

右の詩は日中徒然の戯作、■如何に返しもあらば返書の内に

七月十九日 吉住 拝

西園寺殿

(文意)

酷暑の季節ですが、いかがお暮しでしょうか?きっとお元気なことと察します。

私はその後も無事で、とても健康に暮らしていますので、どうぞご安心ください。

先だってお送りした数通の手紙はお手元に届いたでしょうか?伺いたく思います。お返事は封筒の裏面の通りお書きいただけますと、必ず私の手許に到着します。そのつもりでおもそ様には別封の手紙を一通差し出しておきました、なおあなた様からもよろしくお伝えいたadakようお願いします。お伝えしたいことはいろいろあるのですが、多忙のため、この辺で筆を止めておきます。

※詩は略

右の詩は日中いたずらに作ってみたものです。お返しの歌もございましたら、お返事のなかに認めてください。

七月十九日 吉住 拝

西園寺殿

《資料8》(資料番号1-6)

待みすくなき憐れなる御身か心の底を歌に読みて福永君の手紙に添へて送られし一枚の半紙ハ、昨日予の手許二届いた。兎角今の世の中は猜々忌々だから、御互の前途、御互の意思通り貫徹する事が出来るか出来ぬか、之は一の疑問なり。悲哀の淵に沈める御身は嘸ぞやつらからん、嘸ぞや苦しからんとは蛮土の境に身ををき、生死の境に在てすら片時も吾胸を去らない、寧ろ吾胸裡に刻印されて生涯此煩悶ハ免かるゝ事は出来ないと思われる。御身は決して急ぐ勿れ、徐行に蹉く事なし、事こゝに至りし以上は只々吾非を責めて萬事運命の神にまかするより外に手段わないから、決して人を恨まず、時節到来を待つて、樂しき温かき月日を迎ふる事を神に祈り、かりにも

由なき野心を起さず、此上にも親兄弟に袖をしぼらす如き事なからしめ、御互の毀損せし名譽を回復する事に努めたならば、如何に涙の乾きし世の中とハ云へ、如何に冷かな血を有せる世の人とハ云へ、此上無情の淵に強いて墮落せしむる事もあるまいと思われるけれ共、思ふ通りに行かぬのか即ち世の中、若しや一步を誤まり、御互の縁糸切レ々となつて、再び繋ぐ事の出来ない悲しき哀れなる境遇に陥りもしたら、其時ハ幸なき御互の運命と諦め、生涯独身を以て押通すのみ、何の六ヶ敷き事か之れあらんだ。

返歌

たちさわぐ

君か心の大波に

揺られ乱るゝ

吾かをもひ哉

末ながら益永もさ様に宜敷言ッて下さい。先達而の手紙ハ着きましたか、知らして下さい。

サヨナラ

八月廿日

繁象

乙寿子殿

(文意)
頼るものも少ない可哀そうあなたが心の底を和歌に詠み、福永君の手紙に添えて送られた一枚の半紙は、昨日私の手許に届いた。とにかく今の世の中は疑心暗鬼だから、お互いのこれから、お互いの意思通り貫徹することが出来るかどうか、これは大きな疑問だ。悲哀の底に沈むあなたはさぞや辛かろう、さぞや苦しかろうという思ひは異国に身を置き、生死の間にあつても私の胸から消えることはない。むしろ我が胸中に刻みこまれて、生涯にわたつてこの煩悶から逃れることは出来ないと思われる。

あなたは決して急いではいけない。徐行する者がつまづくことは無いのだ。事ここに至つた以上は、ただ私の非を責めて、すべて運命の神に委ねるよりほか手段はないのだから。決して人を恨まず、時節の到来を待つて、楽しく暖かい月日を迎えることを神に祈るしかない。仮

にも宜しからぬ野心を起さず、これ以上親兄弟に涙を流させるようなことをしてはいけない。

お互いの傷ついた名譽を回復することに努めたならば、いかに涙もない世の中とはいえ、いかに冷血漢の世間とはいえ、これ以上無情の底に落とし込むようなことはあるまいと思われるけれど、思う通りにいかないのが即ち世の中。もし一步を誤り、お互いの縁の糸が切れ切れとなつて、再びつながることが出来ない悲哀なる境遇に陥つたりしたら、そのときはこれがお互いの運命だとあきらめ、生涯独身を押し通すのみだ。何の難しいことがあらんだ。

返歌

たちさわぐ 君の心の大波に

揺られ乱るる わが想いかな

末筆ながら、益永(増永)にもそのようによろしく言つてください。先だつての手紙は着きましたか、お知らせください。

サヨナラ

八月二十日

繁象

乙寿子殿

《資料9》(資料番号1-7)

時下初秋之候、如何御暮らし被成候哉、伺上候、不肖幸に無事蓋平攻撃後、大石燈、營口、海城、牛莊の各役に参加し、至極壯健にて今回の世界未曾有の遼陽惣攻撃に参加するを得、独り競祝に不絶候、今回の惣攻撃ハ実に凄まじきものにて、客月廿六日より戦闘を開始し、夫れよりハ夜となく昼となく砲銃声ハ回山に響き、戦闘正面ハ廿里余に亘たり、我々ハ其最前線ニ在て敵と交ふる銚先ハ寝ねても休まらず、砲銃声の為に気壓に変動を来たし、雨の絶ゆる間とてソなく、道路ハさながら川の如く烟地ハ泥濘にして馬膝を没し、前進に不便なる事云はんかたなし、然りと雖も進まざれば我軍の不利不勘、殆んど餓付け団子の如くなりて、敵壘に突て入り、或ハ夜襲をなしなどすれど、敵の砦ハ堅固にして容易にぬぐ事を得ず、只多数の死傷者を出すのミにて、少シの前進も出来ず、実に諸將の苦辛ハ云ふまでも無之、各村落到目

かけて打ち出す砲弾ハ少しの隙間もなく、とても昼の間には突入するは六ヶ敷き事とし、夜に乗じて堡塁を占領せんとこの計画を以て、本月三日我第六師団歩兵第廿三聯隊十三聯隊、四十五聯隊、廿八聯隊ハ第一先登として夜襲を試ミしも敵の鉄条網にかゝり、横隊の俣枕を列べて斃れ、残りし者とても負傷して、辛ふじて生命丈けを得て退却せし杯、実に苦辛慘憺言語につくし難く候、手紙に書くも涙の種つゆは邪に正に勝ち難く、兵数こそ少なりと雖も忠義にこりし日本兵、戦友の負傷も不顧、雨霰と■く敵弾を犯して難なく敵塁を乗り取りたる時ハ残る者惣数の四分の一位にて屍の山、血の小川とは是かとはかり打ち驚き申候、幸にして我々の小隊には小銃弾ハ大分ありたれど、負傷者ハ至ッて少く、砲弾も余程蒙りしも命中したるハ一二発にて、一発の砲弾にて少尉一名(小隊長) 上等兵二名兵卒五名馬十：

(後欠)

(文意)

初秋の候ですが、いかがお暮しでしょうか。私は幸い蓋平への攻撃後、大石燈、營口、海城、牛莊の各戦闘に参加し、とても元気です。今回、世界未曾有の遼陽総攻撃に参加することができ、一人競祝(恐縮)に堪えません。

今回の総攻撃は実にすさまじいもので、先月二十六日から戦闘を開始し、それからは夜となく昼となく、大小砲の銃声が辺りに響きわたりました。戦闘の正面(両軍衝突の場)は二十里余り(八十km)にもわたり、我々はその最前線にあつて敵と交える鋒先は寝ても休まりません。砲声銃声のために精神にも変動をきたし、雨の絶える間とてなく、道路はさながら川のようにです。戦場は泥濘深く馬の膝あたりまで沈み、前進に不便なことは言い表すことができません。しかしながら進軍しなければ我が軍の不利は少なくないので、ほとんど餉子付けの団子のようになつて、敵の堡塁に突入し、あるいは夜襲をかけました。しかし敵の砦は堅固で簡単に突破することは出来ず、ただ多数の死傷者を出すのみで少しの前進も出来ません。実に諸将の苦勞は言うまでもなく、各村落めがけて打ち出す砲弾は、少しの隙間もない密度です。

とても日中に突入するのは難しく、夜陰に乗じて堡塁を占領しようという計画を立てました。本月三日、我第六師団歩兵、第二十三聯隊、第十三聯隊、四十五聯隊、二

十八聯隊が第一先鋒として夜襲を試みましたが、敵の鉄条網にかかり、横隊陣形のまま枕を並べて斃れ、生き残った者たちも皆負傷して、辛うじて生命だけを保ち退却するなど、実に苦辛慘憺は言い表すことが出来ません。手紙にこうして書くのも涙の種となる次第です。しかし、兵数こそ少ないといえども、忠義に厚い日本兵。戦友の負傷も顧みないで、雨あられと降り注ぐ敵軍の銃弾のなかを突き進み、敵堡塁を乗っ取ったとき、生存者は総数の四分の一ほどに減り、屍の山、血の小川とはこのことかとばかり大変驚きました。

幸いにして我々の小隊は小銃弾をかなり打ちかけられたものの、負傷者はいたつて少なく、砲弾もよほど撃ち込まれましたが、命中したのは一、二発だけでした。一発の砲弾で少尉一名、小隊長、上等兵二名、兵卒五名、馬十：

(後欠)

《資料10》(資料番号1―3)

(拝啓)

平和第一の新春を迎へ候てより何となく満州の地も暖かきやに感せられ、内地にもあらば鶯の初音も長閑に聞ゆるならんと轉た故郷の偲はるゝも亦我ながら無理ならぬ事と存せられ候。師走の末方御仕出しの手紙ハ慥かに落掌拝見いたし候所、何日に変らぬ寒暑の御注意難有存候。小生も騎兵聯隊へ赴任以来無事達者なるは例の如くにて、満州の第二年を迎へ得たるも是偏に御身等の顧祈に依るならんと感激の外無之候。目下の儀ハ至ッて過楽の方にて、殊に以前の繁激極まれる高等司令部より隊附となりたる事とて、一層過楽を感じ、毎日殆ど無事に苦み居候。福永君の処とは左まで遠くもあらず、約二、三町の処にて、往来も不絶致し居り候、且又小生退出後ハ福永君に就ては其筋の人以後事も委敷依頼致し置きたる事とて、何も不自由の事等ハ無き筈に候間、同氏御両親様始めおもそ様等へも御心配なき様申伝へ被下度候。凱旋の期も早や一ヶ月余りと相成候折柄、御身御大切ニ御待ち被下度候。

一月十四日

吉住繁象

乙寿殿

（文意）

平和第一の新春を迎えてから、なんとなく満州の地も暖かく感じられます。内地（日本国内）でもあれば、ウグイスの初鳴きものどかに聞こえるだろうと故郷がしのべれます。これもまた我ながら無理からぬことだろうと思います。

師走の末にあなたが出された手紙は、確かに受け取りました。読みましたところ、いつもと変わらぬ寒暑のご注意、ありがたく思います。私も騎兵聯隊へ赴任以来、無事健康であるのはいつも通りで、満州での二年目を迎えたのもこれ一重にあなたたちが無事を祈ってくれているからだ、と感激しかございせん。現在はいたつて安楽なもので、とくに以前繁忙を極めた高等司令部から、部隊付きとなったことで一層安楽を感じています。ほとんど毎日無事退屈に苦しんでいます。

福永君がいるところとはそんなに遠くなく、約二、三町（二・三〇〇m）の距離で、お互いの行き来も絶えず行っています。また、私が退出したあととも福永君についてはその筋の人に後事を詳しく依頼していますので、何も不自由なことは無いはずです。このため、福永君のご両親をはじめ、おもそ様へのご心配なきようお伝えいたしたいです。

凱旋の日程まで早くも一ヶ月余りとなりました。あなたもお身体を大切に、（私の帰りを）お待ちください。

《資料11》（資料番号1—9）

寒月澄み渡る蒙古の境に在って、深更驢馬の悲鳴を聞きつゝ人知れぬ涙を硯にすり流かし、一筆申上候、自分は今の場合になって、こんな事を言って、乙寿さんをいぢめるのではないか、兎に角乙寿さんの決心と覚悟とを伺ひたいと思つて、此手紙を認めた訳なんだから、篤と考へて返答をして貰ひたい。自分は此手紙を認むるに付けても、身を切らるゝ想がして、乙寿さんの御両親や兄上様に対して、うしろめたくて気が咎め、非常に良心の制裁を受けて、実に何共言へぬ苦痛を感じるのです。乙寿さん、あなたは奈何お思ひでしょう。自分の打明けた処を云ふと、気の弱い奴だと思ひでしょうが、決して、そふではないと思ひます、此後愈々理想を実行するとしても第一が世間体でしょう、以前から吾等二人は汚れた

交情で有った事ハ世間に知れ渡つて、大概の人は一度位の後指ハ指したに相違あるまい、それが引ひて、御父上様や兄上様の御名譽を毀損した訳けであるから、一ツには御家柄に對し、一ツには世間に對し、快く互の願を容れて下さるか奈何か、是は一ツの疑問で有る。自分の推察では、枯木に花の譬へと同様だと考へて居るのです、何はあれ、それもあなたの決心と、僕の決心だけれ共、満州の月澄み渡る夕べ、窓洩る風の枕辺通ふ折など、寢醒めに独りつくづくこんな事を考へると、心細くなる事もあるので、莫迦なツと思つて杞憂に過ぎんと思ひ返して、互の間に春の海の様に平和な、三五の月の様に円満な愛を描いて、恣まゝに愛情に耽つて打ち消す時もあるけれども、どうかすると、御父上様や兄上様のこわいお顔に睨まれて「吉住貴様ハ何処までも厚顔の図々しい奴だな」とお叱りの声を聞く事が度々あるのです。其お顔を見、其お声を聞くと、如何にも罪を犯せし人が法律の網を遁がれて、巡査や探偵にでも、行き逢つた様に、理と非の別ちも無く、争ふ勇氣もなく、恐怖と、驚愕とにて打倒れて了う様な心地かするのです、其時の無情と絶望と云ふものハ、どれ程で有ふか、自分ハ只乙寿さんの御推察にまかせる。彼と是とを綜合して、思ひ考へると我等二人の間には廣くして然かも大なる障碍物や、危険物が横ハツて居るから、互に理想して居る未来が、飽かぬ儚ない一場の夢に經過し去つてしまいわせぬかと、案じられるのです。乙寿さん、あなたの御決心次第で、此吉住繁象の運命ハ定まるのですから、どうか十二分の御覚悟と決心とを此悲境に沈める僕に迄知らして下さい

頼むよ

凱旋ハ二月廿六日鉄嶺発車なれば熊本着ハ三月十日前後に候

二月十五日 繁象

乙寿子様

（文意）

寒月が澄み渡る蒙古の国境において、深夜に驢馬の悲鳴を聞きつつ人知れぬ涙を硯に摺り流し、一筆申し上げます。私は今の状況になつてこんなことを言つて、乙寿さんをいじめる訳ではないけれど、とにかく乙寿さんの決

心と覚悟をうかがいたいと思つて、この手紙を認めた訳だから、しっかりと考えて返答してほしい。私はこの手紙を認めるにしても、わが身を切られる思いがして、乙寿さんのご両親や兄上様に対して、後ろめたくて気が咎め、非常に良心の呵責にさいなまれ、本当に何ともいえない苦痛を感じるので。乙寿さん、あなたはいかがお思いでしょう。

私の本当の気持ちを打ち明けると、気の弱いやつだと思いでしようが、決してそうではないと思います。このあといいよ（二人の）理想を実行するとしても、第一（の障壁）が世間体でしょう。以前から私たち二人が汚れた交際であったことは世間に知れ渡つて、大概の人は一度くらい後ろ指を指したに違いない。それが尾を引いてお父上様や、兄上様のご名誉を毀損した訳なのだから、一つは（西園寺家の）お家柄に対し、一つは世間に対し、快く私たちの願いを聞き入れてくださるかどうか、これは一つの疑問である。私の推察では「枯木に花」の譬えと同様だと考えているのです。何はともあれ、それもあなたの決心と、僕の決心だけでも、満州の月が澄み渡る夕べ、窓から洩れる風が枕辺を通うときなど、寢覚めに一人つくづくこんな事を考えると心細くなる事もあるので、「馬鹿なツ」と思つて杞憂のうちに過ぎるだろうと思ひ返して、お互いの間に春の海のように平和な、三五の月（八月一五日夜の月）のように円満な愛を描いて、望む通りに愛情に耽つて（不安を）打ち消す時もあるけれども、どうかすると（あなたの）お父上様や兄上様の怖いお顔に睨まれて、「吉住、貴様はどこまでも厚顔の図々しいやつだな！」とお叱りの声を聞くことが度々あるのです。そのお顔を見、そのお声を聞くと、いかにも罪を犯した人が法律の網を逃れるうちに、巡査や探偵にでも出くわしたように、道理の区別もなく、争う勇氣もなく、恐怖と驚愕とに打ち倒れてしまうような心地がするのです。そのときの無情と絶望というものは、どれほどのものでしょうか。私はただ乙寿さんのご推察にお任せする。あれやこれを総合して思い考えると、私たち二人の間には広くて、しかも大きな障害物や危険物が横たわっているから、互いに理想としている未来が、満ち足りない、儚い一夜の夢のうちに過ぎ去つてしまひやしないかと心配されるのです。

乙寿さん、あなたのご決心次第でこの吉住繁象の運命は定まるのですから、どうか十二分のご覚悟と決心とを、この悲しみに沈む僕へ知らせてください。

頼むよ。

凱旋は二月二六日に鉄嶺を発車するので、熊本到着は三月一〇日前後です。

二月十五日 繁象

乙寿子様

《参考》【資料番号1・11】

らん筆御めんさない

あなたの近頃の御気色はいつもと異り毎日々々心配さふな御顔つき、うつゝとして笑もなされぬ、何か御心配な事でもありますか、又御病氣ではなりませぬか、御心配なれば御云ひなさい、御病氣ならば一日もはやく医者へ御出でなさい、私も一所に参りますから。喜び憂を共にするが朋友のつとめ、私は如何なる事でも妾が身に叶ふ事ならば何事でも及ばずながら御一所に致しますから、何事でも御つしやつて、どうぞゝゝ御心をなやませられず、御達者にて御勉強遊され、よき成績を得られん事こそ、妾が身に取て此上なき喜びで御座ります、あなたが毎日々々うつゝとしてなされば、私まで何かゝとして心にかゝり、もしや御病氣ではあるまるか、御心配な事はあるまるか、一日もはやく心を浮き立てては笑顔を見たいのです。又近頃は別な事まで思やられて、心は千々にみだれて、一つとして楽しき事とはなく、見る物聞く物につけてかなしき事のみ、あわれ天は我が心をさつして露程のなさけはかけまじかと思へば、せきくる涙はとめがたく、夜とてもまゝねむる事出来ず、学校へ出ても書よむ心もなく、御身の事のミ心にかゝりますからどうぞはやくよくなつて、御話などをもして下さい。